

# 支援者の苦悩



令和6年能登半島地震と向き合う  
支援者の葛藤と疲弊

Social  
Issue  
Lab

SIL

令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。そして被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。このタイミングで震災をテーマにリサーチすることの是非をSILメンバー内でも悩みました。それでも「知る」ことには価値があると信じ、このレポートをお届けさせていただきます。被災地域の皆さまの安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

※レポート本文には地震を想起するような写真やイラストが登場します。  
ストレスを感じた場合は閲覧をお控えください。

---

調査対象者	令和6年能登半島地震の被害が特に大きい4県(石川県/新潟県/富山県/福井県)を含めない、 全国43都道府県の男女15-69歳 ※中学生以下は除外	
調査手法	インターネットリサーチ	
調査期間	2024年2月3日(金)～2月4日(土)	
聴取項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・震災後に見聞きした情報</li><li>・見聞きした情報への感情</li><li>・最も印象深かった情報・ニュース</li><li>・震災支援や防災行動への認知・理解</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・認知ある震災支援や防災行動への行動実態・意向</li><li>・震災の情報による、気持ちと行動のあり方(MA)</li><li>・震災の情報による、気持ちと行動のあり方(FA)</li></ul>

---

Introduction

# 支援の正解が わからない。

このレポートが焦点を当てるのは、「支援者」の心の揺れ動き。なにもできない無力感。報道を目にしながらも、平和なお正月を過ごす罪悪感。SNSのフェイクニュースに踊らされ、身近な人との価値観の違いに疲弊する。支援したい気持ちはあるけれど、金銭的余裕もなければ、正しい支援方法もわからない。令和6年能登半島地震と向き合う支援者の苦悩を紐解いていきましょう。



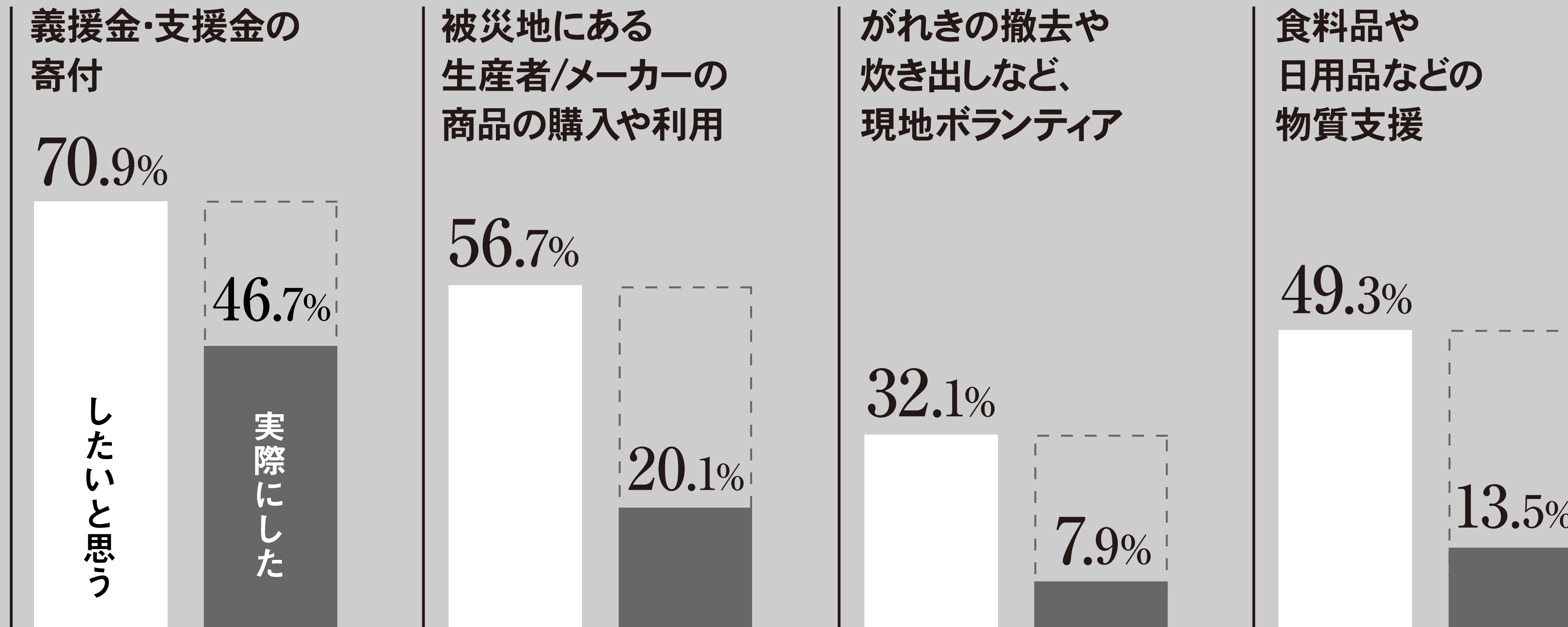
やっぱり、みんな応援したい。

「物質支援や募金など、何かしらできる支援をしたい思った。」

“86.8%”

# 応援したいけど、自分ではなかなか行動できない。

Q 支援行動の意向と実績について



# 支援したいけど、お金が——

Q  
今回の震災でやりたいと思っ  
たけどできなかったことは？

たくさんの義援金を送りたいかったが  
自身の生活もあるため少額でしか  
できなかった。 — 29歳女性

もっと義援金をと思ったが  
昨今の値上げラッシュで余裕がなく、  
少ししかできなかった。 — 55歳女性

多くのお金を  
募金したかったのですが  
あまりできなかった。 — 17歳男性

- ・支援金を送りたいが余裕が無い。
- ・少し募金をしたけどもっとしたいのに出来ない。
- ・寄付をしたいがお金に余裕が無く出来ていない。
- ・寄付などをしていと思うが、申し訳ないがそんな余裕はなかった。
- ・もっと寄付をしたいと思っただけ、物価高などの影響で自分達の出費も増えていると思うとなかなか寄付出来なかった。

# 支援したいけど、やり方が

Q  
今回の震災でやりたいと思っ  
たけどできなかったことは？

何をしたいかわからないうちに、  
何もできなかった。 — 49歳男性

何か行動したいのに、どの様にしたら  
いいかわからず、結局何もしていない  
自分が少し嫌になっている。 — 60歳女性

ボランティア活動をしたいと思うが  
どうしたらいいかわからない。

— 66歳男性

- ・支援金を提供したかったけど、  
情報の整理ができていなかった。
- ・せめて募金をとったがどこにいくらすればいいのか  
迷ってできていなかった。
- ・何かできることはないのだろうかと思っ  
ていながら時間だけ経ってしまった感じ  
です。
- ・寄付を考えていてもできる場所がない。  
・情報の正しい判断。



# 支援したいけど、信頼ができない——

Q  
今回の震災でやりたいと思ったけどできなかったことは？

たくさん寄付したいけど、横領のニュースがあったりしたのでどの団体にすればいいのかわく見極めが難しい。——44歳女性

募金をしたいと思っているがどの団体が誠実なのか判断に迷っている。  
——63歳女性

- ・かつて別の災害の時に支援したことあるけど、本当に支援が届いたのか不明だったから、何もできなかった。
- ・義援金がどこに送ればよいかよく調べたい。

なんだかモヤモヤする。

情報を受け取る際の  
複雑な問題も見えてきました。

# 情報錯綜の 震源地「SNS」

SNSにはデマやフェイクニュースが溢れかえる。目を背けたくくなるような炎上議論の数々に支援者の心は疲弊していくばかり。

5人に1人が

“

「フェイクニュースや炎上議論が多すぎて、目を逸らしたくなってしまった」

or

「情報が多すぎて、何を信じてよいのか戸惑った」

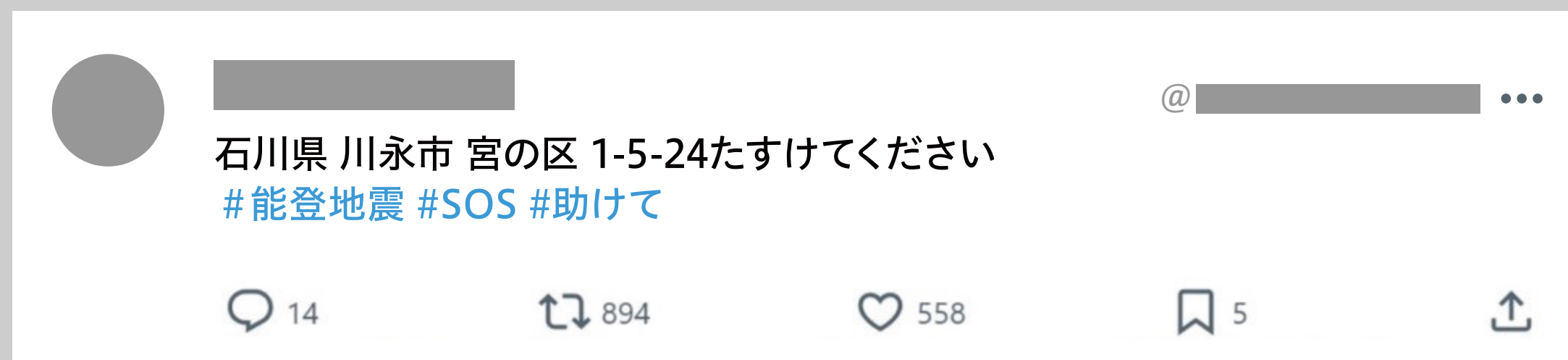
と感じていました。

”

Q 今回の震災で特に印象に残った情報は？

# なにがホントで、なにがウソ？

架空の住所で助けを求めるXの投稿



自販機から「盗難された」というニュース記事

石川・穴水の避難所、40～50代の集団が自販機破壊し金銭盗む…目撃者「避難所がパニックに」

1/6 (土) 6:39 配信



地震被災者の避難所となっている県立穴水高校で自動販売機が壊され、中から飲料と金銭が盗まれていたことが5日、目撃者の証言でわかった。

SNSでの嘘の救助要請 — 20歳男性 自動販売機を壊して飲み物を確保した件。 — 18歳男性

SNSで過去や関係のない地震の映像を流し、人々の不安を煽っていること。 — 28歳女性

ボランティアや自衛隊を装った泥棒や詐欺が発生しているという情報。 — 45歳男性

# 分断という 二次災害

情報への解釈の仕方や、防災リテラシーの違いが浮き彫りに。近しい人でもひとつひとつのスタンスの取り方で分断が見てとれる。



Q 今回の震災で特に印象に残った情報は？

# 災害時の情報の 捉え方の違いにモヤモヤ

ヤマザキパンがすぐにパンを被災地へ運んだ事に対して  
「添加物がたくさん入っているものを配るな」という意見。 — 50歳女性

震災支援や防犯に関する認識が身近な人と違ったとき、  
相手の認識が間違っていると考えてしまって、距離を置きたくなってしまった。 — 32歳女性

第一報時のNHKアナウンサーの報道の仕方は素晴らしいと感じたが、  
母親は過剰に煽っていて嫌だと言っておりその捉え方の違いに怒ってしまったこと。 — 29歳女性



# 被災地における 生理の軽視にモヤモヤ

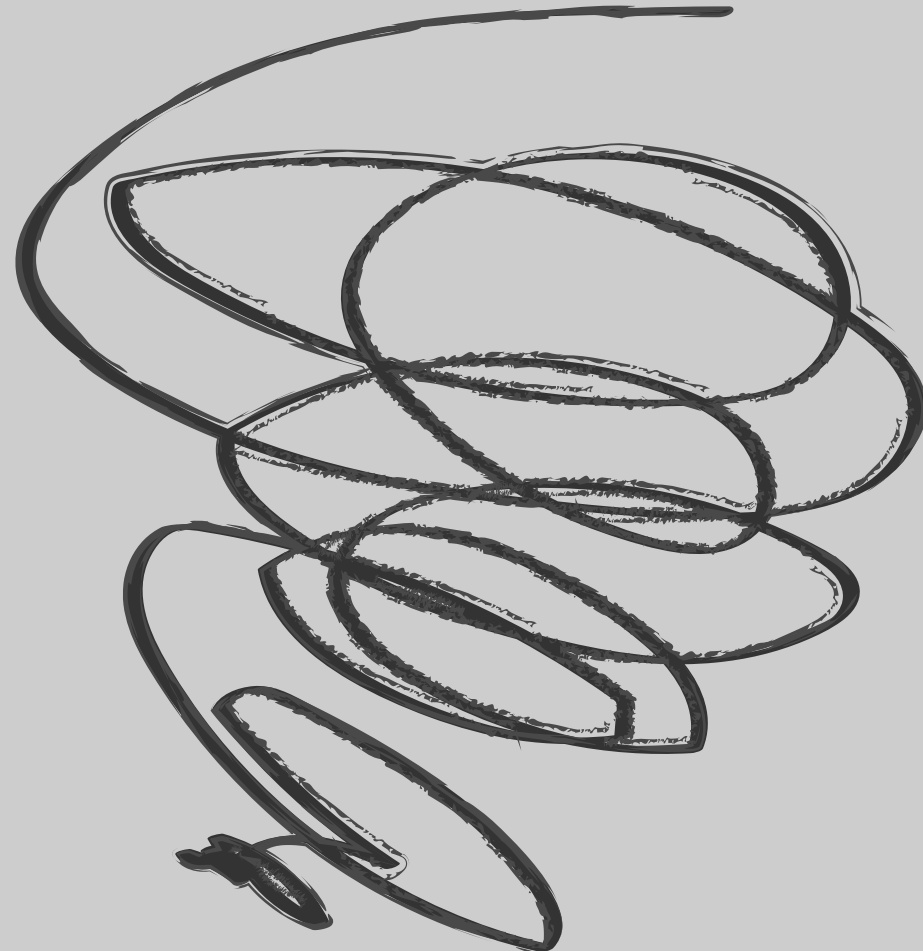
生理用品を巡っての男女の価値観、知っている情報の違い。 — 18歳女性

生理用品を女性に配ることに対し、不平等さを訴えた情報。 — 46歳女性

男性の生理用品に対する知識の無さ。 — 47歳女性

生理に関する情報で知られてない、勘違いされていることが多いこと。 — 20歳女性

生理用品を、生理を自分の意思でどうにかできると思っている男性が多いという情報。 — 43歳男性



Q 今回の震災で特に印象に残った情報は？

応援したい気持ち失われる  
雑音やフェイクの数々...さらには分断。

でも、**希望の**ニュースもありました。



# 民間企業・団体の

# 「勇気」に救われる。

牛井の提供

— 17歳男性

温泉の開放

— 68歳女性

塾が無料開放したこと

— 17歳男性

正解がない中で、自分たちなりのアクションで一步踏み出そうとする  
民間企業・団体の勇気ある姿勢は生活者にとっては希望の光だった。

Q 今回の震災で特に印象に残った情報は？

# 正解がない。だから知る必要がある。

情報が溢れ、声が届きやすくなったことで防災や震災支援に関しても、いろいろな視点から多くの解が提示されるけれど、その分、私たちは「正しさとは？」と身動きがとれなくなってしまう。その結果、ピュアな支援すらも、難しいものになっています。この状況に突破口があるとするならば、それは「知る」ことなのではないでしょうか？誰が何を想い、社会はどの向きに傾いているのかを知ること。そこから自分なりにできるアクションを考え、勇気をだして実行していく。正解のない時代だからこそ、正しさを見極め模索するために社会を知る。SILは、その一助になれるよう、これからもできるサポートを続けていこうと思います。